



Annual Report 2020

2020年度 年次報告書

発行元:

特定非営利活動法人

地球の友と歩む会/LIFE





理事長 就任挨拶： インド、インドネシアの農村の生活向上支援に向けて

この度、新たに理事長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。私とLIFEの関係の始まりは、LIFEの前身であるアジア協会アジア友の会東京支部の主催するインドネシア、スンバ島植林ツアーへの参加でした。以来、約30年間に及ぶ付き合いとなっています。

ご存じのようにLIFEでは、水、緑、人をコンセプトにインド、インドネシアの農村の生活向上支援に向けて活動を行っています。これは設立当初から変わることなく続けられていて、近年の主な活動として、南インドでは、有機農業のための肥料づくり、水供給、農産物販売などの支援、女性の就労支援などを行い、また、インドネシアスンバ島では、マングローブの植林、有機野菜づくりの支援、小学生への通学バッグ配付などを行っています。このように活発な活動を継続して行うことができるのも、現地のサポーターの方と日本の会員、サポーター、ボランティアの皆様のご協力のおかげと感謝しております。

2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに誰一人取り残すことなくすべての貧困をなくそうという目標が掲げられています。我々の活動もこのSDGsの目標に沿ったものであり、その重要性を再認識しているところです。

ところが、昨年来のコロナウイルス感染症の拡大にともない、現地の方たちの生活も困窮度が増しており、さらに我々の支援活動も難しくなっているところです。しかし、現地との絆を大切に、これ乗り越えていき、また、この経験を生かして、新しい支援のあり方も見つけていきたいと考えています。皆様には、今後も引き続き、ご理解、ご協力を賜るようお願いいたします。

理事長：横山計三

■略歴

1992年： 第1回スンバ島ワークキャンプ参加
2015年： 理事・運営委員に就任
2021年： 理事長に就任

役員

(2021年7月時点)

| | | |
|-----|-------|-------------------|
| 理事長 | 横山 計三 | 工学院大学 |
| 理事 | 向當 稔 | ホームアイアイと警備機器 |
| 理事 | 米山 敏裕 | 特定非営利活動法人地球の友と歩む会 |
| 理事 | 岩田 雅子 | アール・コンサルティング株式会社 |
| 理事 | 上村 真 | 富士電機株式会社 |
| 理事 | 鷲見 香子 | 自然電力株式会社 |
| 理事 | 下山 久光 | アイ・シー・ネット株式会社 |
| 理事 | 黒岩 竜太 | |
| 監事 | 浜走 弘之 | 社会福祉法人恵和 |

【目標】 ビジョン

インドとインドネシアの農村の人々が自然と共生し自立して暮らせる社会を目指します。

【使命】 ミッション

私たちとビジョンを共有する現地NGOと協力し、「水・緑・人」をテーマに支援します。

1 水・緑・人で国際協力

人が生きていく上で重要な水と緑。そして自然と共生する村を運営する人の存在が重要です。そのため水・緑・人を支援分野とし、自然と共生する支援を目標としています。

2 現地の問題は、現地に住む人々が解決する。

日本からの一方的な援助では問題は真の解決を迎えないと私たちは考えています。必ず、問題を解決したい現地NGOまたは行政と必ず協働で支援を実施します。

3 地球の友として、いま私ができることを。

「井戸が足りない！森を復活したい！でも人もお金も足りない！」そんな声を受けて、私たちに出来る国際協力をしたい、という有志が集まりLIFEは設立されました。

LIFEが目指す 社会と支援方針

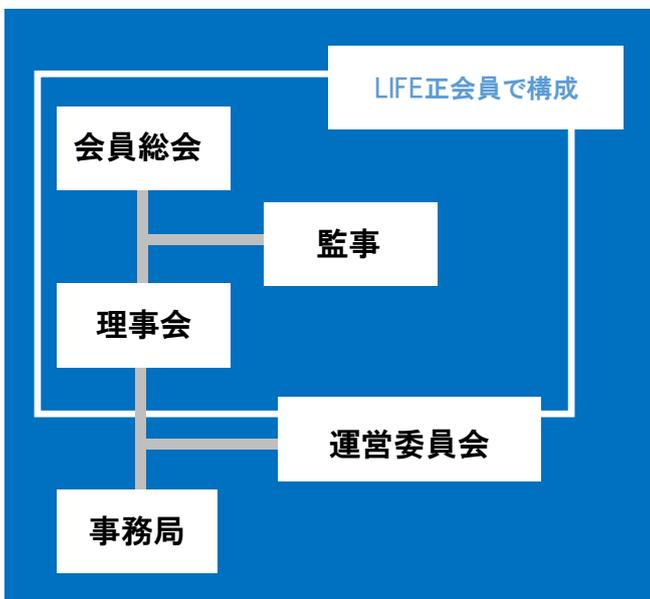
■ 沿革

| | |
|---------|--|
| 1986年4月 | アジア協会アジア友の会東京事務所として設立 |
| 1990年4月 | インドにて井戸建設の支援および現地との交流を開始 |
| 1992年3月 | スンバ島にて植林活動および現地との交流を開始 |
| 1999年9月 | 「地球の友と歩む会」として独立、NPO法人格の取得 |
| 2016年4月 | 設立から30周年を迎える ✓ インドで農業支援をした村人が3,000人を突破 ✓ スンバ島での植林本数が延べ約40万本を突破 ✓ 協働した現地NGO／行政の数が延べ60団体を突破 |

■ 協働実績（近年）

| | |
|---------|---|
| 2015年4月 | 外務省日本NGO連携無償資金協力でインド有機農業支援を開始 |
| 2016年7月 | 緑の募金の協力でスンバ島でマングローブの植林を開始 |
| 2017年4月 | 労働連合「愛のカンパ」の協力で東スンバ島の小学生支援の開始 |
| 2018年4月 | ゆうちょ財団の協力でスンバ島で有機野菜作り研修を開始 |
| 2021年4月 | 味の素ファンデーションの協力でスンバ島栄養改善支援を開始 ※2020年度に実施予定でしたが新型コロナの影響で1年延期しました |

■ 組織図



■ 事務局メンバー

(2021年7月時点)

事務局長
インド・インドネシア担当

米山 敏裕



インドネシア担当
古賀 麻美



経理 / 国内担当
佐藤 静香



■ 目次

02

理事長就任挨拶
役員紹介
LIFEが目指す
社会と支援方針

03

沿革
協働実績
組織図
事務局メンバー

04

2020年度
インド事業報告

07

2020年度
インドネシア
事業報告

10

インド
インドネシア
[COVID-19]
新型コロナウイルス
感染症の状況

12

団体・個人からの
ご協力
ご支援・ご参加の
方法

14

会計報告



有機農業の研修

伝統農業を取り戻し、安心して農業に取り組むために。



かつて行われていた身の回りの自然物を利用した有機農業を復活させることで無理な借金をせずとも農業で生活ができるよう支援しています。また、野菜や果物の種子を自分たちの組合で共同管理し、購入費用を抑える取り組みも行っています。**外務省日本NGO連携無償資金協力**の助成を受けて実施しました。

今後は、昨年度に完成した有機農業リソースセンターで定期的な有機農業の研修を行いモデル農家を増やします。その後、各地で教わった農法を各地域で教え広め、資金難から農家を諦めたり、無計画な化学肥料に頼って借金苦に陥る農家を減らしたいと考えています。2020年度は20のモデル農家に養蜂箱を渡し、蜂を使った自家受粉や蜂蜜の販売で収入を得るテストを行っています。

現地の声

研修を受けたマンマラスパティ村の住人

シードバックから種もみを借り受けました。今までは借金して購入していたので、収穫できた種から借り受けた分を返却すればいいので、とても助かりました。

2020年度：活動結果

- ① 2カ村の農業研修を受けた150人に果樹と野菜苗を配付
- ② 雑穀ミレットの種を貸し出し、収穫できた農家から、来年用の種の返却があった。
- ③ 農業用貯水池の完成や有機肥料の自己生産に成功

農村女性の就労支援

働きたい女性に仕事を！家庭全体で所得向上を！



男性は村に仕事がなくとも出稼ぎ労働で収入を得ることも出来ますが、女性は村の外に出て働きに行くことに抵抗がある農村が多いです。実の両親であっても、村を出て仕事をしようとすれば離縁されたり、村八分にされることも。そのため働きたくても働けない、という悪循環があります。そのため抵抗感が少ないよう、村内での仕事を増やしたり、農作物の販売といった内容から、女性の所得を向上させ、家庭全体の収入向上を目指しています。

今年は**外務省日本NGO連携無償資金協力**で農業研修、収穫物のショップ販売などで女性が活躍しました。しかし収穫した農産物加工のスキルアップ研修や視察などは新型コロナウイルスの影響で実施することが出来ませんでした。

現地の声

研修を受けたマンマラスパティ村の女性より

夫と一緒に有機農業を受けて多くのことを学びました。今後は収穫物を自分たちで高く売れるよう加工して、自分たちで売りたいと思っています。

2020年度：活動結果

- ① 2カ村の女性30人に有機農業研修を実施
- ② 農産物の販売や加工品、有機肥料の販売
- ③ 町等での売上が1年間で186万ルピーに
(日本円で約252万円)

教育ローン運営支援

村の子供たちに、高等教育への進学機会を！



インドでは農村でも教育への関心が高いです。タミルナドゥ州では中学校への進学率は9割となっていますが、高校、大学となると学費を確保できずに諦めている家庭も多いです。また弱みに付け込んだ悪徳な高利貸しも横行しているため、インド国内全体で、住人同士で組合を組織し、ローン運営(マイクロファイナンス)を行うことが推奨されています。

LIFEでは教育ローンを運営する自助努力グループ(SHG)を作り、子供の高等教育への進学を希望する家庭に低利子付き奨学金を貸す仕組みを2012年から実施しています。また入学金などの大金が動かない時期は、貯まった資金で生活向上のための少額ローンも実施予定です。この支援は**二幸建設(株)**のご寄付を元に実施しています。

現地の声

教育ローン運営メンバーの女性より

低利子ですが、着実にローンの原資が増えました。そこでショップの開業や乳牛の購入、農業の興進費など生活向上のためのローンも開始。これからは楽しみです。

2020年度：活動結果

- ① 54名が教育ローンを利用して進学
- ② ローン利用者の返済率が約95%
- ③ 回収した利子で生活向上ローンの運営計画の策定



日本での報道の通り、インドは大都市を中心に新型コロナが流行しています。幸い2020年度は支援地域から近い町(ディンディグル)で大きな流行はありませんでした。しかし農作業等もマスクの着用が求められ、農村では購入できる店も、購入資金もない人が多くいます。そのため現地NGOから無償提供を受けた不織布を使用し、マスクの縫製を開始しました。

マスクの縫製は、以前にLIFEの支援を受けた縫製工場に依頼し、2020年7～9月にかけて3,000枚を生産。州政府の指導で縫製工場は定期的に生産を停止しましたが、9月に3,000人の村人に配付することが出来ました。この支援は主に**2020年度ひまわり募金**などから実施しました。

現地の声

マスクを受け取ったマンマラスパティ村の女性

急にマスクの着用を求められても、売っている店もお金もないため助かりました。新型コロナは遠い大都市で流行しているため、2020年9月辺りは他人事でした。2021年6月頃は村でも感染者が出てとても怖い気持ちです。

2020年度：活動結果

- ① 不織布マスク3,000枚を生産
- ② マンマラスパティ村とS.バラス村の2カ村と周辺住人、近隣小学校の児童を含めた3,000人に配付
- ③ 縫製工場の工員の女性たち10名の雇用維持

短期支援事業

少女たちへの生理教育研修



インドでは血液は不浄と考え、生理について友達どころか母親とも話すことができない地域が農村に残っています。清潔なナプキンを購入するお金もなく、またインドでは買い物は一般的に男性が行うためナプキンを購入する必要性を感じていません。そのため使い古しの不衛生なボロ布を代用する家庭が多いです。

女性医師から生理の正しい知識、衛生教育、ナプキンの使い方などをレクチャーしました。また新型コロナの影響で失業した男性から性的暴行を受ける事件が起きているため、危険なサインを見分ける指導も行いました。この活動は主に**2019年度クリスマス年末募金**で実施することが出来ました。

現地の声

研修を実施した現地男性NGOメンバー

村から貧困をなくすためには、女性の雇用を広げないといけません。ですが生理のせいで男性や女性からも白い目を向けられるなど、問題は根深いです。女性の雇用を広げる際は、生理教育も考えていかないとけません。

2020年度：活動結果

- ① ヴィチパティ村、カリヤパティ村の少女33名に実施
- ② 少女たちへの研修の他、男性や年上女性への理解も広げようと啓発ポスターを掲示



マングローブの植林支援

荒野のスンバ島に森の復活を！



スンバ島にはかつて森がありました。開発や焼き畑などで失われていき、島の10%ほどしか森は残っていません。乾燥地帯のため、2~3カ月しか降らない雨だけでは自然回復は難しく、植林によって回復を試みています。マングローブ林も広がっていましたが、開発によって失われています。

今まで植林するための苗は購入していましたが、2015年から植えた木が成長し、種をつけたので、植林用の苗木として育てました。2020年度は新型コロナの影響で大規模な植林イベントを開催することが出来ませんでした。森を復活する活動を進めることが出来ました。この支援は、**三菱商事様**と皆様からのご寄付で実施しました。

現地の声

スンバ島の国立公園の職員より

マングローブが増えたことで、海岸に野鳥やカニ、小魚の数が確実に増えています。自然が回復することで、スンバ島の自然が豊かになって欲しいし、豊かな自然は島民の財産になることを啓発していければと思います。

2020年度：活動結果

- ① パダディタ海岸で植林し成長した木から600個の種を収穫
- ② 収穫した種すべてが成長し、うち400個は植林済み
- ③ 植林と見回りは現地NGOと周辺住人で実施

スンバ島の図書充実支援

将来の可能性を広げるために本に触れる機会を増やす



現地の声

子ども向け私立図書館を運営する現地NGOより

スンバ島では未就学児のほとんど全員が字を読めません。また村では教科書を購入できない家庭が多いため、学校が貸し出しています。初めて文字に触れるなら、教科書より物語が良いと思っています。日本の皆様、スンバ島の未来にご協力下さい。

近年、スンバ島ではオーストラリア政府の支援によって学校図書の充実支援が実施されています。また子供の通学意欲を上げるための工夫をする学校も増えてきました。しかしLIFE職員が視察すると、町から離れた僻地の学校には図書がなく、また東スンバ県の教育局と現地NGOからの要請もあり、本格的に絵本の寄贈を進めることにしました。

日本で出版された絵本に、インドネシア語の翻訳を貼って現地に贈呈しています。日本の絵本は、インドネシアで出版されている絵本と違い、フルカラーで絵が大きくて可愛いく、装丁もしっかりしているとのことで好評です。この活動は**永岡書店様**のご協力、**日本でのボランティア活動参加者様**、**皆様からのご寄付**、**絵本の寄贈**によって行うことが出来ました。

2020年度:活動結果

- ① 約70名のボランティアが翻訳貼りボランティアに参加
- ② 54冊の絵本がボランティアの手によって完成
- ③ 106冊の絵本が翻訳を貼るためにLIFEに寄贈された

小学生の通学バッグ支援

手づかみで荷物を持ち通学する子供たちをなくす



現地の声

通学バッグの製作者の女性より

2019年は洪水や高速道路建設で立ち退き、2020年は新型コロナと困難の連続です。村で集団で感染者が出た際は驚いたが、政府が縫製工房を消毒したり、隔離によって無事に過ごすことが出来ました。

貧困家庭では、文具や通学バッグを買いそろえることも困難で、手づかみで片道2時間を裸足で荷物を持ち通学する子供もいます。東スンバ県教育局からの要請で、東スンバ県の農村部の約120の小学校に通学バッグを配付するプロジェクトを実施中です。バッグはジャワ島の貧困世帯の主婦たちが製作しています。この支援は**労働連合:愛のカンパ**の協力で実施しました。

新型コロナの影響でスンバ島では休校が1年続き、製作したバッグは保管中です。またバッグを縫製している中部ジャワ州の村でクラスターが発生し、隔離や消毒のために作業が大幅に遅れました。このプロジェクトは2021年度で農村部のすべての小学校に配付するバッグの縫製を完了する予定です。

2020年度:活動結果

- ① 1,035個のバッグを縫製完了
- ② 昨年度に縫製したバッグ2,000個はスンバ島の倉庫へ移動。学校の再開後に配付予定。



現地の声

マスクを受け取った小学校の教師より

休校中ですが子どもたちが自習を続けられるように村を回っています。マスクがなければ、村から村へ移動することも子どもたちを村に集めて自習の手助けも出来ませんでした。本当に感謝しています。村は山や谷に点在しているので1日に何か所も回れませんが、頑張ります。

日本での報道の通り、インドネシアは大都市を中心に新型コロナが流行しています。支援地域であるスンバ島の、県庁所在地で空港のある東スンバ県ワインガップ市を中心に感染が広がっています。インドネシアでは外出や農作業をする際にもマスク着用義務が東スンバ県より課せられました。

しかし貧困農村ではマスクを購入する店も資金もないため、現地NGOスタッフが布マスクを製作し配付しました。また住人の多くが信仰するキリスト教の牧師にはフェイスシールドも配付し、流行する町で感染防止策をとりました。

その他、休校中で自宅学習が続く子どもを対象に、現地NGOが運営するラジオ放送局で教育番組を放送、講師は定年退職した高校教師に依頼し継続的に行っています。

この支援は2020年度ひまわり募金などから実施しました。

2020年度：活動結果

- ① ワインガップ市および周辺農村600名に布マスクの提供
- ② 300個のフェイスシールドを作成し希望者に配付
- ③ 約3,000人の子どものラジオ放送で教育番組を聴講

協働支援事業

バリ島北部：水道運営の基盤整備支援事業



バリ島北部の水資源について調査を行っていた日本人3名の協力依頼を受け、今までの給水活動の経験値の共有が出来るならばと事業の協働を行うことになりました。

バリ島は、スンバ島とは比較にならない観光地ですが、リゾート開発が進む南側と、3,000m級の山々を超えた北部では状況が異なります。支援地域として定めたプダワ村では、住民が自主的に水道を運営しています。しかし運営の不十分さ、給水設備管理の技術不足などで、水道を使用出来ているのは村の2割しかない状態です。

この問題を解決するにあたり、LIFEは主に支援の全体監督やアドバイスを行っています。この支援は、**ゆうちょ財団様**、**日本国際協力財団様**の助成を受けて実施し、2023年度までの3年計画で終了予定です。

LIFE事務局長：米山コメント

初めてのプロジェクトのため、現地を視察したかったのですが新型コロナの影響で叶わず。また現地も開始が遅れましたがzoomで定期的に顔を合わせ、プロジェクトを進めることが出来ました。私の今までの経験が生かせてとても嬉しく思います。

2020年度：活動結果

- ① 新たな水道組合設立・規格化された体制の構築
- ② 水道料金システムの構築
- ③ バリ島ウダヤナ国立大学・公営水道会社との連携



インド [COVID-19] 新型コロナウイルス感染症の状況

2021/7/26時点



インド全体の状況

2021年5月上旬をピークに減少傾向です。しかし毎日4万人の感染者が報告されているため日本とは状況がかなり異なります。感染状況は芳しくありません。

南インド:タミルナドゥ州の状況

日本で報道されるインドの深刻な状況は、首都デリーを中心とした大都市の報道が多いです。首都デリーから支援地域の村までは約2,000km(北海道から九州)までと距離があり、新型コロナの流行当初は、周辺地域で感染者がいなかったこともあり、住人はのんびりとした雰囲気でした。しかし村に近い町デインディグルでも感染が広がりはじめ、ロックダウン(都市封鎖)が定期的実施され、いままロックダウン中です。(2021年7月末まで延長・7/26時点の情報)

ロックダウンしたデインディグルには、農家自身が農産物を販売する市場への出店、2020年3月にオープンしたショップを開店した地でもあります。ロックダウンによって市場は封鎖や縮小が起き、農家の所得が減るのではと心配しましたが、ショップの運営は州政府による制限付きですが定期的に行うことができました。



インド担当:米山よりコメント

コロナ禍でのインドでの活動は大きく制限されてきました。特に有機農産物では週に1回開催されていたウイクリーマーケットとサンデーマーケットは政府の指導もあって禁止されていて現在も継続されています。オーガニックマーケットは午前8時から午後4時までと制限されて営業が許可されています。しかし感染症の影響で失業したり、収入が減ってしまいお客さんも少なくなって4割売り上げが落ち込んでいます。そんな中で現地NGOでは大都市のチェンナイに野菜、果物を週に1回運んで生産農家に還元しています。また、SNSを活用して有機農産物のメリットを定期的に配信しています。将来的に健康面、環境面でも大事なことになってくると考えるからです。都市部にあるホテルでは料理に有機農産物を利用することが注目されているようです。有機農産物を購入する消費者が全国的に広がっていくことをめざして生産者の組合づくりも計画されています。

支援農村の状況について

2020年までは、農村地域までは感染が広がっていませんでしたが、2021年4月頃から現地協力NGOが村で運営する縫製工場の工員に感染者が出始めるなど、農村地域にも感染が広がり始めています。

また度重なるロックダウンの長期化によって、2021年度には農産物の売上も落ち込んでおり、また日雇い労働者の失業が増えています。またロックダウンで都市への農産物の販売制限などもあり、収入が落ちた農家もいるため、現地協力NGOがヒアリングを行い、失業者には食料品の配給を行うなどの緊急支援を行いました。

農村地域ではワクチンの接種状況も良くなく、またコロナ以前から衛生環境や医療環境に乏しいため、長期化を懸念しています。引き続き、現地協力NGOからの情報を元に支援を継続していきたいと思えます。



2021/7/26時点



インドネシア全体の状況

2021年6月以降、急激に感染者が増加しています。日本での報道の通り、国全体でかなり厳しい状況です。首都のあるジャワ島ジャカルタを中心に感染者が急激に増加中です。

スンバ島東部の状況

東スンバ県では、空路で到着した人は2週間、検疫が指定した場所で待機することが義務付けられるなど、島内に持ち込まない努力はしていましたが、県庁と空港のあるワインガップ市内では2020年度も定期的に流行していました。

現在はかなり医療体制がひっ迫しており、新型コロナ専用病床が満員になり、通常の病床を減らして対応しています。

支援農村の状況

ワインガップ市内の近隣や、幹線道路沿いなど、町との往来が活発な村では感染が広がっています。町から離れた農村では感染者が1人もでていない地域もあります。LIFEが現在、支援を行っている村、地域では感染者は1人も出ていません。そのため、町に事務所を置く現地NGOなどが調査でむやみに村へ立ち入ることが感染を広げるリスクにもなるため、NGO活動がしにくい状況です。

スンバ島は、2021年4月4日に発生したサイクロンによって川沿いの村を中心に被災しました。近年稀にみる大きな災害だったようで、洪水で家を流されたり、土砂崩れで地形が変わるなどの被害が出ています。被災した村は県の支援によって再建が進んでいる地域もありますが、感染症とサイクロン被害の二重苦に見舞われています。引き続き、現地NGOや現地行政と連絡を取り、支援活動を進めていきたいと思えます。

2020年度に中止・延期した支援活動

- マングローブの植林イベント
人が密集するイベントを開催することが出来ませんでした。
- 味の素ファンデーション助成による栄養改善事業
小学校との協働を計画に盛り込むも1年間の休校が決定したので、事業も1年延期し、2021年度に実施予定としました。

インドネシア担当：古賀よりコメント

2020年3月に予定していた会員のスンバ島視察をいったん9月に延期したものの、新型コロナウイルス感染症が収束する兆しは一向に見えず、2020年度は一度も事業地へ出張することがありませんでした。年度初め、事業を開始したくてもできずどうしたら良いのかわかりませんでした。結局、助成機関の承諾も得てできない事業は延期、できるものだけ規模を縮小するなどして実施しました。

医療制度の整っていないスンバ島では検査キットに限りがあり、熱があっても検査できず感染しているのかわからない状態です。ジャワ島で感染し帰島した家族を治療後も家に入れなかったり、感染者が発生した家庭に石が投げつけられ騒然とする事もありました。

スンバ島の皆さんは行き場のない不安を抱えています。今は感染予防対策を続け乗り越えて欲しいと願います。日本も同様に大変ですが、私たちがスンバ島の皆さんにできることはやっていきたいと思えます。

団体・個人からの ご協力 ご支援・ご参加の方法



日本国内も新型コロナによる経済の悪化や困難な状況にあるなか多くの個人・団体の方からご寄付、ボランティアのご支援を受けましたこと、事務局一同、感謝申し上げます。

(順不同／敬称略)

ご寄付のご協力

二幸建設(株)
三菱商事(株)
ときわ幼稚園
(株)ナチュラルプランツ
浄土宗天上山 大念寺
千代田区社会福祉協議会

この他に約230の
団体・個人の方から
ご寄付を賜りました。

リサイクル寄付のご協力

NECグループ
大和証券グループ
キッコーマン(株)
愛知県社会福祉協議会
酒田市ボランティア連絡協議会
三井ボランティアネットワーク事業団

この他に約100の
団体・個人方から
ご寄付を賜りました。

ボランティアのご協力

三菱商事(株)
チャレンジとしま
三輪田学園中学校・高等学校
IHSマークイットジャパン(同)
千代田区立障害者福祉センターえみふる

この他に約100の
団体・個人の方が
ご参加されました。

助成金のご支援

外務省：日本NGO連携無償資金協力
日本労働組合総連合会：愛のキャンパ
ゆうちょ財団：NGO海外援助活動助成
日本国際協力財団：国際協力NPO助成
千代田区社会福祉協議会：広報活動支援助成金

インターン受入

長期インターン1名
短期インターン3名

計4名の方が
活動に参加しました

新型コロナ関連でLIFEは以下の公的支援を受けました。

東京都：家賃等支援給付金
経済産業省：持続化給付金・家賃支援給付金
東京しごと財団：事業継続緊急対策(テレワーク)助成金

※東京都が実施した支援

イベント出展・開催

新型コロナの影響で毎年出展していた、メーデー中央大会(4月下旬)、グローバルフェスタ(9月下旬)は中止、またイベントの有人開催も自粛を致しました。しかし、コロナ禍でもリモートでのイベント開催や出展などは行うことが出来ました。



5月：会員通常総会
初のリモート開催でした。



9月：(株)NEXTRA主催
学生のキャリアアップ講座に登壇。
現地と初めて生中継を行いました。



12月：大分県中津市立真坂小学校
ゆうちょ財団の支援で講演会を実施
しました。



12月：三輪田学園 福祉委員会
絵本ボランティアとスンバ島との
中継イベント、絵本の寄贈を賜りました。



2月：ふれあい満点市場
LIFEは出展を自粛しましたが、主催の
東京ボランティアセンター様が販売を
代行して下さいました。



3月：ちよだコミュニティラボライブ!
千代田区主催イベントでLIFEは話題提供
者として活動紹介を行いました。

今後はリモートのイベントを増やしていきたいと思っています。LIFE職員を招いての講演会や現地との中継イベントなどをお考えの方はLIFE事務局までご相談下さい。(謝礼目安：2時間6,000円～ 交通費別途)

モノを寄付すると活動資金に

切手
※未使用・消印付きOK

郵便ハガキ
※古くてもOK

商品券
全国で使える
商品券・プリペイドカード
(テレフォンカードは未使用のみ)

日本の古銭や海外のお金
記念コイン・メダルなど
※今は流通していない通貨もOK

LIFE事務局までお送り下さい。
事務局で使用したり、ショップ等で換金します。

本 (ISBNコード付き)

DVD・CD・ゲーム

貴金属

ブランド品・時計
宝石や
古美術品など

提携している換金団体にお送り下さい
【きしゃぼん募金】【ヤフオク!モノキフ】
※詳細はWEBもしくは同封のチラシをお読み下さい

2020年度 会計報告



貸借対照表

2021年 3月 31日現在

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | | |
|------------|-----------|-------------|-----------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 8,018,115 | | |
| 貯蔵品 | 841,333 | | |
| 未収入金 | 60,070 | | |
| 流動資産合計 | | 8,919,518 | |
| 2. 固定資産 | | | |
| 敷金 | 780,790 | | |
| 固定資産合計 | | 780,790 | |
| 資産合計 | | | 9,700,308 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払金 | 1,790,838 | | |
| 前受金 | 1,157,000 | | |
| 預り金 | 64,891 | | |
| 流動負債合計 | | 3,012,729 | |
| 負債合計 | | | 3,012,729 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 前期繰越正味財産 | | 9,655,660 | |
| 当期正味財産増減額 | | △ 2,968,081 | |
| 正味財産合計 | | | 6,687,579 |
| 負債及び正味財産合計 | | | 9,700,308 |

会費/種類

●正会員（個人）

年額1口：12,000円

●正会員（団体）

年額1口：20,000円

●賛助会員

年額1口：6,000円

■ 会員総会について

毎年5月下旬土曜日に会員総会を実施しています。総会では活動報告、会計報告、来年度の計画案、予算案などを話し合い、LIFEの活動の最終決定をする場です。LIFE正会員のみ参加することができます。

■ 会員制度について

NPO法人は正会員が法律上の社員で法人を運営する主役です。LIFEを支える会員にアナタもなりませんか？会費は法人運営のための管理費として活用されます。

特典:

- ✓ ツアー参加
- ✓ イベント割引 など

活動計算書

2020年 4月 1日 ~ 2021年 3月 31日 まで

(単位:円)

| 科目 | 金額 | | |
|-----------|-----------|------------|-------------|
| I 経常収益 | | | |
| 1. 受取会費 | | | |
| 正会員受取会費 | 338,000 | | |
| 賛助会員受取会費 | 446,000 | 784,000 | |
| 2. 受取寄付金等 | | | |
| 受取寄付金 | 4,272,809 | | |
| 受取民間助成金 | 5,121,663 | | |
| 受取補助金 | 2,236,270 | 11,630,742 | |
| 3. 事業収益 | | | |
| 国際協力事業収益 | 73,270 | | |
| 4. その他収益 | | | |
| 受取利息 | 62 | | |
| 雑収益 | 435,755 | 509,087 | |
| 経常収益計 | | | 12,923,829 |
| II 経常費用 | | | |
| 1. 事業費 | | | |
| (1) 人件費 | | | |
| 給料手当 | 3,203,000 | | |
| 通勤交通費 | 8,700 | | |
| 福利厚生費 | 9,000 | | |
| 法定福利費 | 257,588 | | |
| 人件費計 | 3,478,288 | | |
| (2) その他経費 | | | |
| 海外プロジェクト費 | 5,062,457 | | |
| 払込手数料 | 264,012 | | |
| 広報宣伝費 | 214,841 | | |
| 通信運搬費 | 127,254 | | |
| 光熱費 | 59,044 | | |
| 家賃費用 | 466,990 | | |
| 消耗品費 | 236,356 | | |
| 会議費 | 11,835 | | |
| 旅費交通費 | 326,052 | | |
| 諸会費 | 37,100 | | |
| 研修費 | 54,631 | | |
| 保険料 | 950 | | |
| 書籍資料代 | 9,225 | | |
| 支払報酬 | 286,459 | | |
| 助成金返還金 | 1,882,742 | | |
| その他経費計 | 9,039,948 | | |
| 事業費計 | | 12,518,236 | |
| 2. 管理費 | | | |
| (1) 人件費 | | | |
| 給料手当 | 2,102,000 | | |
| 通勤交通費 | 19,500 | | |
| 福利厚生費 | 11,000 | | |
| 法定福利費 | 81,589 | | |
| 人件費計 | 2,214,089 | | |
| (2) その他経費 | | | |
| 払込手数料 | 253,515 | | |
| 広報宣伝費 | 212,567 | | |
| 通信運搬費 | 73,438 | | |
| 光熱費 | 25,304 | | |
| 家賃費用 | 200,138 | | |
| 消耗品費 | 317,006 | | |
| 会議費 | 5,072 | | |
| 旅費交通費 | 1,645 | | |
| 諸会費 | 15,900 | | |
| 支払報酬 | 55,000 | | |
| その他経費計 | 1,159,585 | | |
| 管理費計 | | 3,373,674 | |
| 経常費用計 | | | 15,891,910 |
| 当期正味財産増減額 | | | △ 2,968,081 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 9,655,660 |
| 次期繰越正味財産額 | | | 6,687,579 |

2020年度 リサイクル寄付の換金結果

切手・ハガキ 639,362円

使用済み切手
約120kg 108,000円

海外のコイン紙幣・金券など
約12kg 21,041円

きしゃぼん募金 65,538円

2020年度 キャンペーン募金の集計結果

「夏のひまわり募金」6～9月末

緊急支援：新型コロナ対策

892,873円

「クリスマス年末募金」12月～3月末

インドとインドネシアの

村の人に、愛の手を！

1,758,216円

新型コロナウイルスの影響で換金先の長期休業や、事務局主催の仕分けボランティアが開催出来ず、換金ペースが昨年より減少してしまいました。しかし皆様から多くの物品が届きまして、活動資金を得ることが出来ました。誠にありがとうございました。またコロナ禍で多くのご寄付を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

地球と共に、 生きる未来をつくる。



《 持続可能な達成目標 SDGs 》



LIFEが解決したい
最重要目標

1 貧困をなくそう



問題解決のために、大切にしたい価値観・達成目標

2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 15 陸の豊かさを守ろう

英語名 L I F E
Live with Friends on the Earth

所在地 〒102-0071
東京都千代田区富士見2-2-2
東京三和ビル503

最寄駅 飯田橋駅（徒歩5分）

T E L 03-3261-7855

F A X 03-3261-9053

E-mail life@earth-ngo.jp

U R L http://earth-ngo.jp/

銀行口座 ゆうちょ銀行 019支店（ゼロイチキョウ）
当座預金 0400590
[00180-9-400590]

口座名 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会



@lifetokyo



@life_insta_official



@life.ngo



Accountability
Self-Check 2012

これは、JANICの「アカウント
ビリティ・セルフチェック2012」
マークです。
JANICのアカウントビリティ基
準の4文や(組織運営・事業実
施・会計・情報公開)について
問う団体が適切に自己審査し
たことを示しています。